

1. 評価結果概要表

平成 21 年 1 月 5 日

【評価実施概要】

事業所番号	0174100768		
法人名	有限会社 おおいし		
事業所名	グループホーム くつろぎ		
所在地	〒 085-0057 釧路市愛国西2丁目7番10号 (電話) 0154-39-0506		
評価機関名	社団法人 北海道シルバーサービス振興会		
所在地	〒060-0002 北海道札幌市中央区北2条西7丁目かでの2・7 4階		
訪問調査日	平成20年12月3日	評価確定日	平成21年1月5日

[情報提供表より] (平成20年10月31日事業所記入)

改善課題に

開設年月日	昭和・○平成 17 年 9 月 2 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	19 人	常勤 18 人 非常勤 1 人 常勤換算 1.7 人	

(2) 建物概要

建物構造	木造り		
	2階建ての	1 ~	2階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	45,000 円		
その他の経費(月額)	10,000円~14,750円		
敷金	有() 円 無		
保証金の有無(入居一時金含む)	○有(85,000 円) 無	有りの場合 償却の有無	○有 / 無
食材料費	朝食	300 円	昼食 350 円
	夕食	350 円	おやつ 円
	または1日当たり 1,000 円		

(4) 利用者の概要(10月15日現在)

利用者人数	18 名	男性 5 名	女性 13 名
要介護1	6 名	要介護2	4 名
要介護3	5 名	要介護4	3 名
要介護5	名	要支援2	名
年齢	平均 85.7 歳	最低 68 歳	最高 96 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	さい内科・島津歯科・大久保歯科
---------	-----------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当事業所駐車場には中学生が作成した絵画が利用者の心を和ませている。ホーム長はじめ職員は、利用者尊重を重んじ、ケアサービスの質の向上に努め、利用者の安心、安全な生活を継続する為に、日々努力している。一人ひとりのペースを大切にされたケアが実践されており、家族からの信頼も厚く、家族の訪問も多い。町内会に入会し、地域との関わりを積極的に持ち、会報の回覧も行なっている。地域住民とは、日常的に挨拶を交わし、敬老会にも参加し交流に努め、双方向の理解が深まっていて、地域密着型サービスを目指した事業所である。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4) 改善課題の玄関ドア・地域住民との交流などホーム長・管理者・職員が一体となり改善に取り組んでいる。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) ホーム長・管理者・一部職員と話し合い自己評価に取り組んでいるが、全員での協議には至っていない。評価の意義を会議で話し合い、確認し合い、職員全員で評価に取り組む事に期待したい。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 運営推進会議は、町内副会長・民生委員・包括支援センター職員が出席し事業所の行事等を報告し質問や意見交換をしている。家族参加者を増し、運営推進会議を定期的に開催し、地域の理解をより深めることを期待をしたい。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 家族とは常にコミュニケーションを取る様に心掛けている。家族からも意見、要望を言い易い雰囲気作りをし、表出された意見は運営に反映させている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 町内会に入会し、会報を回覧して頂いている。近隣住民とは、散歩などで日常的に挨拶を交わしたり、敬老会にも利用者と参加している。地域の中学生や高校生が来訪し、芸を披露して下さり、近隣住民も参加し、交流に努めている。地域活動や事業所行事を通して双方向の理解が深まっている。

2. 評価結果 (詳細)

外部 評価	自己 評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「明るく、楽しく、元気に」「家族及び地域との交流」の理念を作りリビングに表示している。	○	新たな理念を作るのに職員からアンケートを取りまとめ集計し作り上げる段階まで来ている。地域密着を盛り込んだ理念になる事を期待したい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ホーム長・管理者・職員は理念を共有し、確認しながら日々の実践に向けて取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に入会し、会報を回覧して頂いている。近隣住民とは散歩などで日常的に挨拶を交わしたり、敬老会にも利用者と一緒に参加している。地域の中学生や高校生が来訪し芸を披露して下さり、近隣住民も参加し、交流に努めている。地域活動や事業所行事を通して双方向の理解が深まっている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	ホーム長・管理者・一部職員と話し合い自己評価に取り組んでいるが、全員での協議には至っていない。	○	評価の意義を会議で話し合い、確認し合い、職員全員で評価に取り組むことに期待したい。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議委員は町内副会長・民生委員・包括支援センター職員で構成されている。会議では事業所の行事などを報告し質問や意見交換を行なっている。	○	開催は定期的に行い、構成委員には家族の参加も増やし、地域交流を活かした運営推進会議が開かれることに期待したい。
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の担当者とは随時連絡を取り合い、サービスの質の向上に取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	毎月の通信と共に個々の生活を写真付きでお知らせし、金銭出納帳も送付している。家族が通院介助をしているので家族の訪問が多くその都度暮らしぶりは説明している。新規職員採用時には会報で報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族とは常にコミュニケーションを取る様に心掛けている。家族からも意見、要望を言い易い雰囲気づくりをし、表出された意見は運営に反映させている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	離職がある場合ホーム長・管理者・職員が一体となり利用者のダメージを最小限に抑える努力をしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修に参加する職員には勤務シフトを調整し研修の機会を促している。事業所内でも勉強会を設けている。職員は働きながらステップアップを図りサービス向上を目指している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会に参加し、地域の同業者と交流を図り研修会や交換交流活動を行ない、サービスの向上への取り組みを行っている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人や家族の要望に応じてホーム長が面談し情報を把握し管理者に伝えている。事業所見学を促したり、希望や要望を聞きながら徐々に馴染めるように対応をしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者の出来る事と出来ない事を把握し、得意な食事の準備や季節の祭事・漬物の付け方など教えて頂く事が多く、一緒に漬物を漬け、職員と共に支えあう関係を築いている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の担当職員を決め個別の関わりを大切にしている。利用者の希望や意向の把握に努め、支援をしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者の担当者がケア会議の中で管理者やホーム長と話し合うと共に、利用者の希望や家族に相談しながら、介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は3ヶ月ごとに見直しを行っている。健康状態に変化が生じた場合は現状に即した計画を随時作成している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人や家族の要望に応じて通院・買い物・墓参り・海岸公園・日帰り温泉など柔軟に支援をしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前の医療機関受診に家族が通院介助し、家族や医師と情報の伝達を行っている。訪問看護月2回、皮膚科医の訪問医療が有り適切な医療を受けられるように支援をしている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	職員と家族は時々話しているが、職員全員で共有してるとはいえない。本人や医療関係者との話し合いに至っていない。	○	書類を整備し検討委員会も大切であるが、本人や家族そしてかかりつけ医などと繰り返し話し合いながら、職員全員が方針を共有することに期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	プライバシーを損ねるような言葉使いや対応もなく記録などの個人情報の取り扱いにも配慮している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースを大切に、その日の体調に合わせ利用者の希望に沿った支援を行っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員と利用者が一緒に献立を作り、買い物、準備、後片付けなど協力しながら行い、身体状況に合わせて盛り付けを工夫しながら食事を提供している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴を楽しんでもらうように利用者の希望に沿うように配慮をしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	散歩・買い物・畑作業・運動・銭湯など利用者の楽しみと気晴らしの支援をしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	一人ひとりの希望に沿って、日常的な散歩や買い物、畑に出かけるように支援をしている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員は玄関に鍵の掛けることの弊害を理解し、鍵を掛けないケアに取り組んでいる。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回避難訓練をしている。職員だけの夜間シュミレーションも実施している。	○	今後、地域との連携を図り、災害時における協力体制、相互援助体制の整備への取り組みに期待する。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量・水分摂取量などは記録表で毎日チェックし把握している。利用者の食事カロリーや栄養バランスも管理している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングの壁面を利用して行事写真や季節感のある装飾をするなど、居心地のよい共有空間づくりを工夫している。不快な音や光も感じられなく、配慮している。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時、家庭で使用していた家具や仏壇などを持ち込み、家族の写真や趣味の作品を飾るなどして、居心地よく過ごせる空間となっている。		

※ は、重点項目。